様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年５月１１日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2011
課題番号：20520340
研究課題名（和文）　日本伝存典籍による漢籍佚文の輯集と研究

研究課題名（英文）　A study on dissipated ancient Chinese literature collected from books existing in Japan

研究代表者
河野　貴美子（ KONO　KIMIKO ）
早稲田大学・文学学術院・准教授
研究者番号：20386569

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本に伝存する典籍における漢籍佚文の輯集と研究を通じて、日本の学術・文化が中国の書物からいかなる影響を受けつつ形成されてきたのか、その具体相を明らかにすることを目指したものである。従来十分な検討がなされてこなかった古代日本の仏典注釈書を主たる考察対象として、漢籍の佚文に関する基礎データを整理するとともに、それらの資料が有する文化史的意義や日本のことばの特質について多角的に検証し、論文としてその成果を公表した。

研究成果の概要（英文）：This study aims to collect and examine surviving fragments of ancient Chinese literature from books existing in Japan, and clarify specifically how that contributed to the formation of Japanese academic research and culture under the influence of the Chinese books. The main targets of discussion in this study are commentary Buddhist scriptures in ancient Japan, which have not fully reviewed in the past. The study also tries to organize the basic data on dissipated literature of Chinese Classics and examine their cultural historical significance as well as the nature of Japanese words from various angles. The results have been published as multiple papers.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総　計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：日中古典学（漢籍および日本の和漢古文献に関する研究）
科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論
キーワード：文献学　漢籍　佚文　注釈　日中古典学

１．研究開始当初の背景

(1)　日本における漢字、漢語、漢文、ひいては中国の学術・文化の受容と展開という問題については、長い研究の蓄積がある。しかし、こうしたことがらを通史的に広い視点から捉える研究は、日本の、あるいは東アジアのことばと文化を考えるうえで、その必要性が意識されながらも決して多くは提出されてこなかった。一方、近年は国外においても、日本における漢文や漢学、また、日本に伝存する漢籍に対する関心が高まっており、まずは、関連の研究を進展させていくための基盤

を整えていくことが必須の課題だと思われた。

(2)　そこで、関連分野に関する研究の発展のための基礎的作業の一貫として、日本で撰述された著作の中に引用される漢籍からの引用文、その中でもとりわけ貴重な資料的価値を有する佚文の輯集に取り組むこととした。これは、1968 年に新美寛編・鈴木隆一補『本邦残存典籍による輯佚資料集成』（京都大学人文科学研究所）が刊行されて以後、これを継ぎ、補う体系的な成果が現れていない状況を鑑みたものであり、当該書の調査が及ばなかった仏典注釈書を主たる検討対象として輯佚と研究を行うこととした。

２．研究の目的

奈良末・平安初期の興福寺僧善珠の撰述になる仏典注釈書を中心として、古代日本の各種典籍から漢籍の引用文、とりわけ佚文・異文に注目してそれらを輯集、整理し、その資料的価値を明らかにすることを目指した。そして、各典籍における漢籍の引用状況の詳細を明らかにすることによって、古代日本における中国の学術・文化の受容の具体相、古代日本における漢語・漢文読解の水準と日本のことばと文化の形成について考察を行うとともに、東アジアに共有された漢字、漢文、漢籍の有する意義についても考察を及ぼすことを意図した。また、古代日本の各種典籍における漢籍の引用状況を整理することは、日本研究のみならず、文学、語学、歴史、思想など、広く中国古典学に関わる基礎作業であることをふまえ、関連分野の研究の進展に資するものとなるよう、その情報を整理し、公刊することを目指した。

３．研究の方法

(1)伝存諸本の調査

善珠撰述の仏典注釈書『成唯識論述記序釈』や『因明論疏明灯抄』をはじめとして、考察の対象とする典籍の伝本調査を行った。漢籍引用部分にみえる佚文、異文の研究を進めるには、一字一字の異同状況など、本文の慎重な校勘作業が必要である。そのため、版本のみならず、各地図書館や寺院などに所蔵される写本をも対象として網羅的調査を行った。

(2)日本伝存典籍における漢籍佚文、異文の研究

(1)に述べた伝存諸本の調査をふまえ、日本伝存典籍にみえる漢籍からの引用文について、現在伝存するテキスト類との比較、考証を行い、佚文・異文を整理、抽出した。考察対象は、善珠撰述仏典注釈書を中心とし、智光や安澄といったその前後の仏者による注釈書、また、具平親王の『弘決外典鈔』や、空海の『三教指帰』に対する平安期の注釈書、さらには『源氏物語』の古注釈書にも広げ、古代日本の漢籍受容状況の過程や全体像が明らかとなるよう試みた。また、特に資料的価値が認められる箇所については詳しく検討を行うとともに、古代日本における漢語・漢文読解の方法と水準、漢文および和文による著述環境、東アジアに共有された漢籍の意義などについて考察を行った。

(3)調査、研究成果の発表

以上の調査、研究に伴う成果を、学会発表や学術雑誌などへの論文発表を通して公にした。とくに、本研究が、広く日本および中国の古典学研究のさらなる発展につながる資料、視点を提供するものとなるよう、日本および中国などにおける国際学会での研究発表の機会を多く作り、中国古典学や文献学などを専門とする各国の研究者とも積極的に意見・情報交換を行った。

４．研究成果

(1)　研究の主な成果

①　まず、善珠撰述の仏典注釈書である『成唯識論述記序釈』と『因明論疏明灯抄』について、伝存諸本の調査を行い、とくに漢籍の引用部分について徹底した本文調査、校勘を行った。具体的には、東大寺図書館蔵寛永八年写『成唯識論述記序釈』写本や、興福寺蔵寛元二年写『因明論疏明灯抄』写本などである。それらの資料調査を通じて、従来の大正新脩大蔵経などの活字本のみを用いていては知り得なかった、本文の異同が存することが多々明らかとなった。そして、善珠が漢字一字一字の詳密な音義注を施す箇所において、梁・顧野王『玉篇』や『切韻』、玄応『一切経音義』などの漢籍資料が用いられていること、中でも『玉篇』の利用部分は佚書『玉篇』の貴重な佚文資料であることを明らかにした。また、その他の経書や史書などの漢籍が引用されている部分について、現在伝存しているテキストとの校合を逐一行い、唐代当時の本文を反映しているとおぼしき異文を抽出、検討した。その中には、現在通行している本文とは異なるものの、敦煌から出土した唐代写本と一致する本文が存するなど、漢籍の伝播と享受を考察するうえで重要な発見もあった。これらの本文に関する情報は、電子テキストとしてデータ化し、検索利用に便利なように整理した。

②　善珠がいかなる漢籍を用い、いかなる注釈を施しているかをみることは、当時日本にいかなる漢籍が伝来し、また古代日本において漢字・漢語・漢文の読解がいかにして行われたのかを知る具体的事例となる。善珠は上記の辞書類のほか、類書や注疏、また例えば

『坤元録』といった現在は伝わらない個別の書物など、さまざまな典籍を利用していることが明らかとなった。なお、『周易正義』や『春秋正義』が書名を明記して引用されており、これは日本における五経正義の引用例として最も初期のものである。また、佚書『文選』公孫羅注が利用されていることも、当時『文選』がいかなる注とともに受容されていたかを示す見逃しがたい情報である。これらさまざまな典籍を駆使してなされる善珠の注釈は、中国のいわゆる漢唐訓詁学の方法に則るものである。ことばを異にする日本の地において、漢字の音義を追究し、時には詳細な字体の別の議論にもおよぶ善珠の注釈は、漢字文化を共有した東アジアのことばと学術の一つの遺産として大きな意義が認められるものであることが確認できた。

③　善珠の仏典注釈書に関する考察と平行して、善珠以後に現れた安澄の『中論疏記』や具平親王の『弘決外典鈔』、また、藤原敦光による『三教指帰』の注釈書である『三教勘注抄』などについても、伝存する諸本調査を進めながらうえで、漢籍引用部分を中心に検討を行った。その結果、それらの注釈書類にも漢籍の佚文や異文資料が多数残ること、また、善珠の生きた奈良・平安初期以後、大陸から新たにもたらされた典籍が注釈に加えられていく過程や、漢語・漢文を学び注釈書を撰述するにおよんだ各時代の文士や僧侶らの学問の状況も具体的に明らかとなってきた。また、『源氏物語』に対する鎌倉・室町期の注釈書における漢籍引用部分の考察を通して、奈良期以降、漢字、漢語がいかに受容、変容され、日本語世界へ消化されていったのか、漢文訓読の実際の様相などとともに考察を深めることができた。

(2)　得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

本研究の4年の研究期間中、漢文訓読や日本における漢字、漢文に関わる学界の関心はますます高まってきた。それは例えば、関連の書物の刊行が相次いでいることのほか、日本中国学会において 2010 年の大会から新たに「日本漢文」部会が設けられたことにも表れているといえよう(2010年の大会では河野も口頭発表を行った)。また、中国をはじめとして、海外においても、日本あるいは中国以外の東アジア地域に伝播派生した漢籍や「漢」文化をテーマとした国際シンポジウムがさかんに開催されている（河野も〔学会発表〕の欄に掲げた①、③、⑤、⑥、⑧、⑩、⑫、⑬などに参加、発表を行った)。

そうした学界の趨勢において、本研究課題における一連の取り組みも、一定程度内外に知られ、インパクトをもった成果をあげることができたように思う。例えば、『中国典籍与文化』や『域外漢籍研究集刊』といった、現在中国の文献研究の分野で中心的な位置を占めている学術雑誌に関連の論考を発表する機会を得られたことは、本研究の一つの達成といえる（〔雑誌論文〕⑥、⑪)。なお、日本においても古代文献に関わる研究論文などで本研究の成果に言及するものも見受けられる。

また、河野は、2011 年度より、早稲田大学日本古典籍研究所の所長を務めているが、本研究所が 2011 年より中国・浙江工商大学東亜文化研究院と学術交流協定を結び、古典籍をめぐる日本、中国の交流史について共同研究を開始したことも本研究課題に関わるものである。2011 年 7 月には、日本と中国の関連分野の研究者とともに国際シンポジウム「東アジアの漢籍遺産――奈良を中心として」を開催し、現在はその成果論文集を編纂中である。本研究を一つの基として、国内外の研究者との連携を得て、さらに幅広く、漢籍をめぐる共同研究が展開できつつある。

(3)　今後の展望

本研究は、善珠撰述仏典注釈書をはじめとする日本伝存典籍における漢籍佚文の輯集と研究を行い、その成果を主に論文として公表してきた。一方、調査を行った諸本の本文や、漢籍引用部分に関する基礎情報は電子データ化を行い、整理を進めてきたが、今後は、それら全体をいかにして公にしていくか、その方法も含めて検討していく必要がある。

また、今回検討の対象としたのは、奈良から平安期にかけて撰述された資料を中心としたが、今後は検討対象を鎌倉・室町、さらには江戸期へと広げ、日本における漢籍の受容、日本における漢字・漢語、あるいは日本における「中国学」の展開を通史的に、現在に至るまで見通していく必要がある。

また、本研究の最終段階で若干考察を行ったことであるが、古代日本における漢籍の受容について考えるにあたっては、古代朝鮮の状況についても当然視野に入れなくてはならない。このことについては、まだ、研究は緒に就いたばかりであるが、今後の引き続いての課題として取り組んでいきたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 15 件）

① 河野貴美子、善珠撰述仏典注釈書にみる漢語読解の方法、河野貴美子・王勇編　東アジアの漢籍遺産――奈良を中心として（仮題)、勉誠出版、査読無、2012 年刊行予定、

② 河野貴美子、古注釈書を通してみる『源氏物語』の和漢世界―『河海抄』、『花鳥余情』―、中野幸一編　平安文学の交響　享受・摂取・翻訳、勉誠出版、査読無、2012 刊行予定、
③ 河野貴美子、日本古代の仏典注釈書にみえる『論語』の引用をめぐって、大橋一章・新川登亀男編　「仏教」文明の受容と君主権の構築、勉誠出版、査読無、2012 刊行予定、
④ 河野貴美子、古注釈からみる源氏物語と唐代伝奇、日向一雅編　源氏物語と唐代伝奇　『遊仙窟』『鶯鶯伝』ほか、青簡舎、査読無、2012、pp.39-93、
⑤ 河野貴美子、藤原敦光『三教勘注抄』の方法―音義注を中心に―、河野貴美子・張哲俊編　東アジア世界と中国文化――文学・思想にみる伝播と再創、勉誠出版、査読無、2012、pp.177-204、
⑥ 河野貴美子、関于北京大学図書館蔵余嘉錫校《弘決外典鈔》、張伯偉編　域外漢籍研究集刊、中華書局、査読無、7、2011、pp.233-251、
⑦ 河野貴美子、《源氏物語》注釈書引用的宋代書籍―以《河海抄》為例、新国学、四川大学中国俗文化研究所《新国学》編輯委員会、査読無、8、pp.61-71、
⑧ 河野貴美子、北京大学図書館蔵余嘉錫校『弘決外典鈔』について、汲古、査読有、58　、2010、pp.21-31、
⑨ 河野貴美子、古代日本における『周易』の受容、国文学研究、査読有、161、2010、pp.22-32、
⑩ 河野貴美子、本草学と医薬書、小峯和明編中世文学と隣接諸学１　漢文文化圏の説話世界、竹林舎、査読無、2010、pp.171-195、
⑪ 河野貴美子、《周易》在古代日本的継承与展開、中国典籍与文化、全国高等院校古籍整理研究工作委員会、査読無、72、pp.39-48、
⑫ 河野貴美子、《因明論疏明灯抄》対漢籍的引用、王勇主編　書籍之路与文化交流、上海辞書出版社、査読無、2009、pp.82-103、
⑬ 河野貴美子、関於興福寺蔵《経典釈文》以及《講周易疏論家義記》、張伯偉編　風起雲揚　首届南京大学域外漢籍研究国際学術研討会論文集、中華書局、査読無、2009　、pp.531-547、
⑭ 河野貴美子、具平親王『弘決外典鈔』の方法、吉原浩人・王勇編　海を渡る天台文化、勉誠出版、査読無、2008、pp.49-80、
⑮ 河野貴美子、渤海使と平安時代の宮廷文学、 仁平道明編　平安文学と隣接諸学５王朝文学と東アジアの宮廷文学、竹林舎、査読無、2008、pp.316-343、

〔学会発表〕（計 13 件）

① 河野貴美子、『海東高僧伝』の叙述方法、浙江工商大学東亜文化研究院・早稲田大学日本宗教文化研究所主催「古典籍にみる高僧伝」国際学術シンポジウム、2012.1.14、中国・黄山屯溪、
② 河野貴美子、渤海使在日本古代文学史上的意義、浙江財経学院人文学院学術講座、2012.1.6、中国・浙江財経学院、
③ 河野貴美子、古代日本文人的漢文学研究方法――以藤原敦光《三教勘注抄》為例、“東亜漢文学研究――回顧与展望”学術研討会、2011.10.29、中国・浙江工商大学、
④ 河野貴美子、THE TRADITION OF THE CLASSICS AS SEEN IN THE OLD COMMENTARIES OF GENJI MONOGATARI : KAKAISHO AND SUBSEQUENT WORKS、The 13th International Conference of EAJS、2011.8.26、エストニア・タリン大学、
⑤ 河野貴美子、奈良朝の仏典注釈書にみる漢語読解の方法、浙江工商大学東亜文化研究院・早稲田大学日本古典籍研究所主催国際学術シンポジウム「東アジアの漢籍遺産―奈良を中心として」、2011.7.29、中国・杭州華北飯店、
⑥ 河野貴美子、《遊仙窟》在日本的伝播、“中国文学海外伝播”国際学術研討会（International Conference on Chinese Literature in Global Contexts）、2011.4.29、中国・北京師範大学、
⑦ 河野貴美子、古注釈からみる源氏物語と唐代伝奇、明治大学古代学研究所公開シンポジウム　源氏物語と唐代伝奇、2010.12.11　、明治大学、
⑧ 河野貴美子、日本と渤海の交流と文学――日渤応酬詩の意義、建国大学校シンポジウム「日本古典文学における異文化交流とその展開をたどる」、2010.11.13、韓国・建国大学校
⑨河野貴美子、中国古典籍研究における日本伝存資料の意義――北京大学図書館蔵余嘉錫校『弘決外典鈔』をめぐって、日本中国学会第 62 回大会、2010.10.09、広島大学、
⑩河野貴美子、唐代仏典注釈書にみる「漢字学」―湛然撰『止観輔行伝弘決』を中心に―、 漢字文化遡源―文字から書籍へ―、2010.09.11、中国・鄭州大学、
⑪河野貴美子、孝をめぐる言説の展開と古代日本における受容、2009 年度豪州日本研究大会・日本語教育国際研究大会（JSAA-ICJLE2009）、2009.07.13、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州立美術館、
⑫河野貴美子、経書の継承と展開―日本にお

ける『周易』受容―、国際シンポジウム「東アジアの文化遺産―その普遍性と独自性―」、2009.05.10、アメリカ・コロンビア大学バーナード学院、

⑬河野貴美子、具平親王『弘決外典鈔』の方法、浙江工商大学日本文化研究所・早稲田大学日本宗教文化研究所主催第三回共同シンポジウム「海を渡る天台文化」、2008.05.31　、中国・天台賓館、

〔図書〕（計１件）

（共編著）

①河野貴美子・張哲俊編、勉誠出版、『東アジア世界と中国文化――文学・思想にみる伝播と再創』、2011、全366頁、

６．研究組織

(1)研究代表者

河野貴美子（KONO KIMIKO）

早稲田大学・文学学術院・准教授

研究者番号：20386569